

第12回 名古屋高速道路懇談会

会 議 概 要

日 時 平成17年12月12日(水) 14:00~16:00

場 所 名古屋高速道路公社黒川ビル2階大会議室

出席者

名古屋高速道路懇談会出席者

伊藤 隆之	社団法人愛知県トラック協会専務理事
今井 智之	愛知県道路公社副理事長
岩崎 信義	国土交通省中部地方整備局道路調査官
大野 睦彦	社団法人中部経済連合会常務理事
荻野 弘	豊田工業高等専門学校環境都市工学科教授
奥野 信宏	中京大学大学院経済学研究科教授
風間 匡	中日本高速道路株式会社中部地区支配人代行
加藤 幹敏	株式会社中日新聞社編集局長
佐々木 永旨	社団法人日本自動車連盟中部本部業務調整部長
鈴木 肇	社団法人愛知県バス協会専務理事
高田 弘子	都市調査室代表
羽田 吉春	名古屋タクシー協会常務理事
松井 寛	名城大学建設システム工学科教授 ・名古屋工業大学名誉教授
水尾 衣里	名城大学人間学部助教授

(敬称略、五十音順)

内 容 ・ 名古屋高速道路懇談会資料に基づき、事業概要、お客様サービス向上に向けた取り組みについて、事務局から説明を行い、各委員から意見を頂いた。

委員の主な意見

- ・ 今後環状2号線の整備等による名古屋高速への利用状況はどう変化すると予測しているか。
- ・ 大高線の渋滞の一番の解決策は東海線の整備であると思われる。
- ・ リフレッシュ工事において高機能舗装により舗装は大変良くなっているが、その反面ジョイント部の音が気になる。今後改善の余地がないか。
リフレッシュ工事で東片端～鶴舞南間で区画線を変更しているが、レーンマーク及び案内標識等が不足しているように思われる。今後の状況をみて改善していく必要があるのではないか。
- ・ 社会実験（端末特定区間割引）の成果はどうか。通勤割引の必要性はないか。
- ・ コーポレート割引は車両毎ではなく企業者毎の割引になるよう大口利用者割引等を将来検討してほしい。
- ・ 今回の割引制度は非常に複雑で割引額の算出が大変である。もっと、単純化できないか。
- ・ 東名阪～高針JCT利用者の割引（3線割引）を再開して欲しい。
- ・ ETC専用レーンの拡充をもっと図って欲しい。
- ・ 料金所合流部の対策（特にETC車と非ETC車との）を行なって欲しい。
- ・ 東山線のトンネル区間の制限速度を50km/hから60km/hに上げて欲しい。
- ・ 今後の割引制度については、今回示した内容で確定か。
- ・ 全線整備時において、東海線の利用台数は何台見込んでいるか。
- ・ お客様満足度調査について、利用しなかった方の意見は反映されていないが、高機能舗装等による環境配慮について、もっとPRしてはどうか。
- ・ リフレッシュ工事の全面通行止による一般街路への影響調査等で、高速道路の重要性をPRしてはどうか。
- ・ 建設費の削減で、公社のサービスレベル等が悪くなるとの誤解を招かないよう、職員に対する研修内容の紹介や、料金収受員への教育等の紹介を行なってはどうか。
- ・ 全線供用後の事業の進め方についてどう考えているか。サービスの向上中心で進めていくのか。効率化、透明性、競争性とは具体的にどんな内容か。

- ・ 今回示された割引制度はETC車にしかメリットが無いが、残り50%の非ETC車へのメリットを考えて欲しい。
- ・ 端末特定区間割引は利用頻度が高いので、社会実験後も本実施して頂きたい。
- ・ 高速上で事故等により、何時間も本線上で待たされた場合の料金還元等考えてほしい。
- ・ 事故車両等の対応時の安全性確保の為、路側帯を広く取ることはできないか。また、非常駐車帯は増やせないのか。
- ・ 通行止工事等の情報提供について、JAFの広報誌を活用していただいているかどうか。